# 2025 年度 授業計画(シラバス)

学 科	人工知能学科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	JDLA Deep Learning for GENERAL対策授	必修/選択の別	選択	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	3年	学期及び曜時限	後期	教室名	301教室
担当教員	吉田 研一 実務経験とその関連資格	<b>.</b>			_

## 《授業科目における学習内容》

人工知能の技術の1つであるディープラーニングに関する試験JDLA Deep Learning for GENERAL(G検定)に合格し、人工知能に対する知識と技術を伸長を図る

### 《成績評価の方法と基準》

試験·課題 70% 出席 20% 平常 10%

# 《使用教材(教科書)及び参考図書》

深層学習教科書 ディープラーニング G検定(ジェネラリスト検定)公式テキスト

## 《授業外における学習方法》

試験テキストをよく読み、何度も反復勉強すること

## 《履修に当たっての留意点》

JDLA Deep Learning for GENERAL(G検定)は試験時期が固定されていないため、自ら受験計画を立てて勉学に励むこと

	受業の 内 容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容	
第 1 回	演	授業を 通じての 到達目標	検定試験の詳細が把握できる。		<b>住田松</b> 牡果 28名 老园寺
	習形式	各コマに おける 授業予定	JDLA Deep Learning for GENERAL(G検定)ガイダンス シラバス・問題傾向の説明	図書一式	使用教材及び参考図書をよく読むこと
第	授業を通じての 到達目標		テキストに沿って技術の理解と知識の定着ができる		
2	習形式	各コマに おける 授業予定	人工知能に関する知識① 第1章AIとは	図書一式	使用教材及び参考図書をよく読むこと
第 3	演	授業を 通じての 到達目標	テキストに沿って技術の理解と知識の定着ができる	図書一式	使用教材及び参考図書 をよく読むこと
	習形式	各コマに おける 授業予定	人工知能に関する知識② 第2章 2-1.探索・推論 2-2.知識表現		
第	授業を 通じての 到達目標		テキストに沿って技術の理解と知識の定着ができる		
4	習形式	各コマに おける 授業予定	人工知能に関する知識③ 第2章 2-3.機械学習・深層学習	図書一式	使用教材及び参考図書をよく読むこと
男 :	演	授業を 通じての 到達目標	テキストに沿って技術の理解と知識の定着ができる	図書一式	使用教材及び参考図書 をよく読むこと
	習形式	形 各コマに	人工知能に関する知識④ 第3章 機械学習の具体的手法①		

	業の 法	内容		使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第 6 回	演習	授業を 通じての 到達目標	テキストに沿って技術の理解と知識の定着ができる		使用教材及び参考図書 をよく読むこと
	ョ形式	各コマに おける 授業予定	人工知能に関する知識⑤ 第3章 機械学習の具体的手法②	図書一式	
第 7 回	演習形式	授業を 通じての 到達目標	テキストに沿って技術の理解と知識の定着ができる	図書一式	使用教材及び参考図書 をよく読むこと
		各コマに おける 授業予定	ディープラーニング① 第4章 ディープラーニングの概要①		
第 8 回	演習	授業を 通じての 到達目標	テキストに沿って技術の理解と知識の定着ができる		使用教材及び参考図書
	形 各コマに おける 授業予定		ディープラーニング② 第4章 ディープラーニングの概要②	図書一式	使用教権及び参考図書 をよく読むこと
第	演習	授業を 通じての 到達目標	テキストに沿って技術の理解と知識の定着ができる		使用教材及び参考図書 をよく読むこと
9 回	形式	各コマに おける 授業予定	ディープラーニング③ 第5章 ディープラーニングの要素技術①	図書一式	
第	演習	授業を 通じての テキ 到達目標	テキストに沿って技術の理解と知識の定着ができる		使用教材及び参考図書 をよく読むこと
10 回	百形式	各コマに おける 授業予定	ディープラーニング④ 第5章 ディープラーニングの要素技術②	図書一式	
第	演羽	習を対しています。	テキストに沿って技術の理解と知識の定着ができる	図書一式	使用教材及び参考図書 をよく読むこと
11	目形式		ディープラーニング実装① 第6章ディープラーニングの応用例①		
第	演習	授業を 通じての 到達目標	テキストに沿って技術の理解と知識の定着ができる		使用教材及び参考図書 をよく読むこと
12	形式	各コマに おける 授業予定	ディープラーニング実装② 第6章ディープラーニングの応用例②	図書一式	
第	通じての 到達目標 習 形 名コマ!: おける	授業を 通じての 到達目標	テキストに沿って技術の理解と知識の定着ができる		使用教材及び参考図書 をよく読むこと
13		各コマに おける 授業予定	状況に応じた適切な人工知能の活用① 第7章AIの社会実装に向けて	図書一式	
第 14 回	演習形式	授業を 通じての 到達目標	テキストに沿って技術の理解と知識の定着ができる		使用教材及び参考図書 をよく読むこと
		各コマに おける 授業予定	状況に応じた適切な人工知能の活用② 第8章AIの法律と倫理	図書一式	
第	習形式	授業を 通じての 到達目標	模擬テストで試験に備える これまで学んだことを総ざらいし把握できる		<b>住田教</b> 井田 20分 艺园事
15 回		各コマに おける 授業予定	試験形式の説明模擬テスト	図書一式	使用教材及び参考図書をよく読むこと